

図書館だより

はつかいち市民大野図書館

No.23 2009年7月号

〒739-0478

廿日市市大野1328番地

TEL (0829) 54-1120

<http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

文学青年キラリ

松本清張生誕100年特集



1909年生まれの作家は、松本清張をはじめ太宰治・大岡昇平・中島敦・埴谷雄高など近代文学作家の巨匠が列なっています。

今回はそれら作家のうち、実は広島市生まれ（一般的には北九州市小倉ですが、自作『半生の記』に広島で生まれたと本人が語っていること、幼少期の写真も広島市京橋あたりで写っており、清張記念館館長も広島出生であるとしている）の松本清張についての資料を展示します。

清張は、他の同年生まれの作家と違い、家庭の事情により15歳で就職、以後も苦渋な前半生を送りました。しかし、42歳の時、発表した『西郷札』が直木賞候補作になったのを機会に、文壇に登場！ その後は、推理・社会・時代・伝奇といった多方面にわたる小説を次々発表し、そのどれもがベストセラーになりました。今でもドラマや映画化されるものが多く、世代をこえたファンも多いようです。

この夏は、清張作品を読んで、あなたも文学青年に遅まきながら、デビューしてみませんか

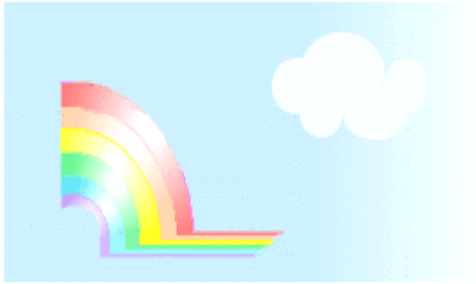
♪図書館員おすすめの1冊♪

たまごを持つように（まはら 三桃／著）

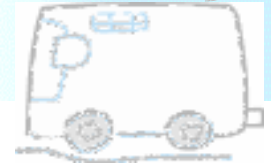
光陵中学校弓道部に所属する、早弥、実良、春の3人。性格の異なる三人に弓を持たせたら……。

弓というのは、ただ力任せに射っても的にはあたりません。精神統一した後、矢を番え、卵を持つように柔らかい空間を含んで弦を握る。上昇させていた弓を少しずつ水平になるまで下ろす。右手で弦を引き、弦が伸びたと同時『パン』と放つまでの行動が必要です。おそらくその時間は数分にすぎないのですが、その域まで達する練習は、三人とも並大抵ではなかったと思います。

なんだ、クラブ活動を通じて、少年少女の卵の殻がむけ、青年になっていく話か！と思った方はまだ読みが浅いです。卵のように、新鮮な柔らかさを保ちつつ、殻のような剛さも持つことのできる心を手に入れたYAの王道小説です。だからこそ、本を手取るのはちょっと苦手な、体育会系の子どもたちに、読んでほしいです。



移動図書館車たんぽぽ号巡回



7月

日	月	火	水	木	金	土
			1 たんぽぽ いもせ	2	3 たんぽぽ おおの	4
5	6 休館	7	8 たんぽぽ 梅原	9	10 たんぽぽ 吉和	11 おはな しかい
12	13 休館	14	15 たんぽぽ 鳴川	16	17 たんぽぽ おおの	18 読書会
19	20 西公図 書室は 休館	21 休館	22 たんぽぽ 深江	23 たんぽぽ 大野寮	24	25 おはな しかい
26	27 休館	28	29	30	31 月末 整理日	

おおのコース(第1・3金曜日)

7月3日・17日 / 8月7日・21日

- ①8区集会所 10:10~10:25
- ②八坂一丁目 10:35~10:50
- ③鳴川(八坂神社下) 11:00~11:15
- ④梅原市営住宅 11:25~11:40
- ⑤対敵山集会所 13:10~13:25
- ⑥対敵山一丁目 13:30~13:45
- ⑦青葉台集会所 13:50~14:05
- ⑧柿の裏集会所 14:10~14:25
- ⑨宮島口上一丁目 14:30~14:50
- ⑩1区集会所 15:00~15:15
- ⑪2区集会所 15:25~15:40

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 休館	4	5 たんぽぽ いもせ	6	7 たんぽぽ おおの	8 おはな しかい
9	10 休館	11	12 たんぽぽ 梅原	13	14 たんぽぽ 吉和	15 読書会
16	17 休館	18	19 たんぽぽ 鳴川	20	21 たんぽぽ おおの	22 おはな しかい
23	24 休館	25	26 たんぽぽ 深江	27 たんぽぽ 大野寮	28	29
30	31 休館					

吉和コース(第2金曜日)

7月10日 / 8月14日

- ①吉和保育園 10:45~11:05
- ②吉和公民館 11:15~11:45
- ③吉和学園 13:00~13:25

保育園コース(各巡回コースの水曜日)

10:30~11:30

- ①いもせ保育園(第1水曜日)
- ②梅原保育園(第2水曜日)
- ③鳴川保育園(第3水曜日)
- ④深江保育園(第4水曜日)

大野寮コース(第4木曜日)

13:30~14:00

移動図書館車

たんぽぽ号 今昔物語

今でこそ、自家用車を使って市内の図書館まで本を借りに行くのがあたりまえですが、約40年前頃、本を借りるといえば、学校図書室か貸本屋ぐらいしか大野地域にはありませんでした。でも本をもっと読みたい! という気持ちが町民に多かったのでしょうか? 昭和41年に浜の大野町役場の跡に大野町中央公民館が設置されてまもなく、図書室ができ、当時職員だった、谷口芳松館長をはじめとする職員の手により本の貸出しが行われるようになりました。

これでお分かりかと思いますが、大野図書館は、公民館の2階にあった図書室がその前身ではありません。(残念ながら、浜にあった旧大野町中央公民館の建物は、護岸工事等により取り壊され、跡形もありません)

さて、こうして始まった本の貸出でしたが、ここまで借りに来るのが難しい地域の住民のために、全国的にも珍しい『移動図書館車による巡回』が昭和46年に開始されました。この巡回にはどんな熱い思いがあったのか、移動図書館車にかかわった職員さんに、順次インタビューし、次回より連載します。乞うご期待!!



広報おおの(昭和49年11月5日)祝中央公民館落成特集号より
初代移動図書館車での巡回光景

読書会

日時およびテキスト

◆七月十八日(土) 十時~十二時

夏目 漱石著

『門』

◆八月十五日(土) 十時~十二時

夏目 漱石著

『彼岸過迄』

場所 廿日市市大野市民センター

第一会議室

参加料 千円

参加のしかた等詳しい内容については、図書館までご連絡ください。

新しく入った本



6月から、はつかいち市民大野図書館に入った本です。
お読みになりたい本が貸出中の場合、予約ができますので、カウンターまたはWEBからお申込みください。本が返却されしだい、連絡いたします。

《一般書》

日本の小説	朝のこどもの玩具箱	あさの あつこ
	たどりそこねた芭蕉の足跡	佐藤 雅美
	みちのく忠臣蔵	梶 よう子
	贖罪	湊 かなえ
	灰の旋律	堂場 瞬一
	COW HOUSE	小路 幸也
	精神科医ミツルの妄想気分	香山 リカ
	忘れられない、あのひと言	「いい人に会う」編集部
	IN	桐野 夏生
	されど時は過ぎ行く	北方 謙三
	かれん	安達 千夏
	その他の文学	ナマコのからえばり2
家族がいてもいなくても		久田 恵
トロムソコラージュ		谷川 俊太郎
松本清張を推理する		阿刀田 高
その他の一般書	太一×ケンタロウ男子ごはんの本	国分 太一
	薬局で買える女性の薬がよくわかる本	佐川 賢一
	親鸞	
	海岸線の歴史	松本 健一
	大逆事件と知識人	中村 文雄
	柄谷行人政治を語る	柄谷 行人
	戸籍のことならこの1冊	石原 豊昭
	家庭で育てる国際学力	陰山 英男
	カピバラ大好き	渡辺 克仁
	上手な鉄道写真の撮り方	
	字幕の花園	戸田 奈津子
	呼吸する家	岩倉 春長
	どんぶりの本	盛田 智宏
	アンティキテラ古代ギリシアのコンピュータ	ジョー・マチャント
人は死ぬから生きられる	茂木 健一郎	

《編集後記》

6/20付の朝日新聞に佐野真一さんが「売れ筋本ばかりの図書館はいらない」というタイトルで昨今の公共図書館のあり方に一言申す！ 記事を書かれていました。確かに現代の図書館は、売れ筋本を利用者に何回貸出することができたかが、サービス度の基準になりがちです。佐野氏の言われる「知を高める場」としての機能もしっかり果たし、移動図書館車等を使って、多くの市民が本と触れ合うことのできる図書館を、これからも続けたいと思います。